

日本人、狭き門に挑む

「シリコンバレー」小川義也、兼松雄一郎、安倍晋三首相が先週、現職の首相としては初めてシリコンバレーを訪れ、日本の中小・ベンチャー企業の進出や起業家の育成を支援する方針を打ち出した。イノベーションで世界をリードするシリコンバレーに有望な人材や企業を送り込み、日本経済の新たな担い手を育てるのが狙いだ。世界中から優秀な人材が集まる「起業の聖地」の競争は厳しいが、高いハードルにあえて挑戦する日本人は徐々に増えている。



「起業家の学校」を卒業した3人（写真左からフライデータの藤川さん、サーチマンの柴田さん、シフト・ファイナンシャルの中村さん）

「競争、日本の100倍」世界相手に勝負

「なぜこちらではどん 倍首相は1日、サンフランシスコ市内で開いた朝の会。みなさんの率直な意見を伺いたい」。安 業家にこう語りかけた。

シリコンバレーの主な日本人ベンチャー（カッコ内は出身アクセラレーター、敬称略）

会社名	代表者	業容
エニーパーク	福山太郎 (Yコンピネーター)	新興企業向け福利厚生
トレジャーデータ	芳川裕誠	ビッグデータ分析支援
サーチマン	柴田尚樹 (500スタートアップス)	アプリ開発者向けデータ分析
フライデータ	藤川幸一 (500スタートアップス)	企業向けクラウド活用支援
シフト・ファイナンシャル	中村恵 (Yコンピネーター)	仮想通貨や各種ポイント管理できる次世代決済
WHILL (ウィル)	杉江理 (500スタートアップス)	電動車椅子
アップソーシャリー	高橋雄介 (500スタートアップス)	スマホアプリのユーザー獲得支援
ドライブモード	古賀洋吉	スマホによる運転支援アプリ

会社ではシリコンバレーと日本における起業家の位置づけや失敗の受け止め方の違いなど幅広いテーマに議論が及び、ベンチャー育成にかける首相の熱意が本物であることが参加者に印象づけた。

参加者の一人、柴田尚樹さん(34)は楽天の最年少執行役員、東京大学助教を経て2009年に渡米。スタンフォード大学で客員研究員を2年間務めた後、アプリ開発者向けに販売動向などのデータ分析サービスを提供

するサーチマンを11年に創業した。シリコンバレーには「アクセラレーター」と呼ばれる起業家の「学校」が複数ある。少額の資金と引き換えに、少額の資金と起業経験者や投資家からのアドバイスをもらえる。一流のアクセラレーターは狭き門だが、柴田さんはそのうちのひとつ「500スタートアップス」を卒業した。

シリコンバレーで起業した理由の一つは、「最初から世界を相手にビジネスができること」だという。同社は世界で数万家の顧客を抱えるが日本は全体の4分の1。日本だけなら市場が小さいビジネスでも世界に広げれば成り立つケースもある。フライデータの共同創業者、藤川幸一さん(37)は日本のヤフーなど複数のIT(情報技術)企業を渡り歩いた後、11年に渡米。企業のクラウド活用を支援するデータベータ関連サービス立ち上げた。

最初に手掛けたサービスが伸び悩み、共同創業者が去るなど苦しい時期もあったが、「4年たつた理由の一つは、最初から世界を相手にビジネスができること」だという。同社は世界で数万家の顧客を抱えるが日本は全体の4分の1。日本だけなら市場が小さいビジネスでも世界に広げれば成り立つケースもある。フライデータの共同創業者、藤川幸一さん(37)は日本のヤフーなど複数のIT(情報技術)企業を渡り歩いた後、11年に渡米。企業のクラウド活用を支援するデータベータ関連サービス立ち上げた。

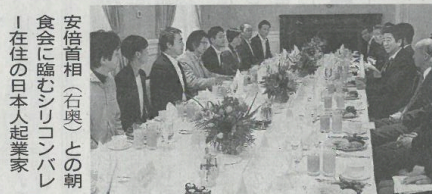
中村恵さん(32)はトップアクセラレーターの「Yコンピネーター」を卒業した数少ない日本人の一人。金融コンサルテイング会社を経て、14年に2人の仲間とシフト・ファイナンシャルを創業した。クレジットカード大手や銀行などと連携

し、仮想通貨や各種ポイントを統合する決済サービスの開発に取り組み。「フィンテック」は日本でも関心が高まっているが、中村さんは「シリコンバレーは日本より変化のスピードが格段に速く、目標になる成功事例が身近にある。この違いは大きい」と話す。

ITバブル崩壊後に企業の撤退が相次いだ日本は、中国や韓国、インドなどに比べるとシリコンバレーでの存在感が薄かったが、状況は急速に変わりつつある。昨年10月時点の進出企業数は726社と前年比で約15%増、邦人数も約4%増の4万268人です。最近では学校の研修も増えている。文部科学省のプログラムを使い、昨年末にまず立命館大学が学生を派遣。東京大学なども続く予定だ。また今年に入り東京工業大学や聖光学院(横浜市)なども研修で訪れている。Yコンピネーターのパートナー、ケビン・ハイル氏は「日本人はまず国内で成功してから世界を目指すというステップで考える人が多いが、それでは遅い」と指摘。英語の壁は低くはないが、世界を目指すなら最初からシリコンバレーにやってくるべきだと呼びかける。

先輩が指南役

シリコンバレーには「アクセラレーター」と呼ばれる起業家の「学校」が複数ある。少額の資金と引き換えに、少額の資金と起業経験者や投資家からのアドバイスをもらえる。一流のアクセラレーターは狭き門だが、柴田さんはそのうちのひとつ「500スタートアップス」を卒業した。



安倍首相(右奥)との朝食会に臨むシリコンバレー在住の日本人起業家

政府、20社派遣へ バイオ・医療など

安倍晋三首相が打ち出した「シリコンバレーと日本の架け橋プロジェクト」の柱は3つある。1つは日本の中小・ベンチャー企業のグローバル展開の支援。デザイン、ロボット、バイオ医療分野を主な対象に5年間で200社を選び、シリコ

ンバレーに送り込む。現地では日系人団体の「米日カウンスル」主導で立ち上げる「賢人会議」が販路の開拓やデザインの上などを助言する。同会議のメンバーには米ヤフー共同創業者のジェリー・ヤン氏や米ツイッター共同創業者のジャック・

ドーシー氏などがそろそろ顔を揃えをそろえた。2つ目は若手人材の育成だ。起業家やベンチャーキーパリスト、大企業の新規事業担当者を対象にまず100人を公募。国内研修で30人に絞り込んだ上で派遣する。シリコンバレーに本拠

を置くベンチャー投資・育成会社Will(ウィル)が受け皿となり、現地の日本人起業家などが指導する。バイオ・医療分野ではスタンフォード大学と東京大学、東北大学、大阪大学が連携する。日米の大企業や投資家と、ベンチャー企業を引き合わせるイベントも東京とシリコンバレーの双方で定期的開催する。